

I. 方針

平成25年度は公益社団法人として2年目、形から内容へと踏み込むための事業年度です。委員会活動では、開催地で大きな評価を頂いている人材育成事業の8人塾が、今年度で3年目を迎え全地区開催となります。急激に増加している受託事業では「新宿区屋外広告物の景観誘導に関する支援業務」をはじめ、より高度で規模の大きなプロジェクトの実施が予定されています。また秋口には欧州を中心とするサインデザイン団体であるIIIDとの国際会議が開催されます。平成22年度から新たな地区としてスタートした沖縄地区で、今年度はやくも定時会員総会が開催されます。SDAが編集を進めている「SIGNS」誌の充実や、地区をまたぐ形で進められる合同研究会等、委員会活動、地区活動ともにダイナミックな動きがますます加速されています。平成25年度は理事および地区の人事が刷新されました。公益社団法人として新たな力を加え、広く社会に貢献するSDAを発信するとともに、全国9地区の会員の方々が、さまざまな活動により深く参画できる仕組みづくりを進めます。

II. 事業計画

公1. サインデザインに関する調査・研究及び情報の収集・提供事業

公1-1. 調査及び研究事業

- (1) 音サインの調査研究 --- 調査研究委員会
 - ・災害時の行政放送について、関係機関への調査を行う。
- (2) デザインの調査研究 --- 調査研究委員会
 - ・屋外広告物についてさまざまな事例やデザイン審査会等について調査を行う。
- (3) サイン素材の調査研究 --- 調査研究委員会
 - ・サインの素材や加工法に関する調査を行う。
- (4) 医療看護支援ピクトグラムの開発 --- 調査研究委員会
 - ・関係者と今後の展開について検討する。
- (5) デジタルサインの調査研究 --- 調査研究委員会
 - ・デジタル技術を活用したサインの事例調査を継続して行う。
- (6) 案内用図記号の開発 --- 調査研究委員会
 - ・標準案内図記号の開発を継続して行う。
- (7) 湯原町まちづくり交付金事業 --- 調査研究委員会
 - ・岡山県真庭市の湯原温泉地区に於いて住民参加型まちづくり・サイン計画を継続して行う。
- (8) 高岡市新サイン計画策定業務 --- 調査研究委員会
 - ・基本デザイン案を元に実施デザイン案を作成する。
- (9) 新宿区屋外広告物の景観誘導に関する支援業務 --- 調査研究委員会
 - ・屋外広告物ガイドラインの作成等について、調査及び内容の検討、ワークショップの開催及びデザイン作成を行うを行う。
- (10) 新サインズ編集委託業務 --- 調査研究委員会
 - ・『signs』として復刊することとし、第2号、3号を出版する。
- (11) 福岡市営地下鉄新駅サイン計画業務 --- 調査研究委員会
 - ・新駅が増設されることによる実施デザイン案を作成する。
- (12) 東日本大震災の復興支援に関する調査研究 --- 調査研究委員会
 - ・震災の復興状況を継続して調査すると共に、必要とされるサインを制作、配置する。

公1-2.

- (1) インターネットの推進 --- 広報委員会
 - ・SDAウェブサイトでの告知を前提に会員に対しては、いかに素早く対応し、興味深く情報を伝えることができるか、会員外に対してはいかに広くSDAを知ってもらうか、露出頻度を高める広報活動を行う。
 - ・ウェブに加え、レスポンスのよいfacebook、twitterの活用し、さらに広範囲に情報を伝えるようにする。
 - ・SDA賞をと関連したSDA賞インタビューはアクセス数も多いので継続する。
- (2) 協会案内の発行 --- 広報委員会
 - ・役員改正年にともない、協会案内のリニューアルをおこない発行する。

公1-3.

- (1) SDA賞作品集の発行 --- 出版委員会
 - ・第47回SDA賞作品集の編集と発行を行う。
- (2) SDA会員名簿の作成 --- 出版委員会
 - ・Signs 編集業務の支援など、SDA 出版事業について各委員会との連携を深め事業内容を再構築。
- (3) デジタル版 2012-SDA annual report の作成 --- 出版委員会
- (4) SDAアーカイブとすべき過去の出版物のデータベース作成 --- 出版委員会

公1-4.

- (1) 委員長・地区代表幹事合同連絡会議の開催
 - ・平成25年9月13日、平成26年2月7日の2回開催し、各委員会・地区の事業計画発表ならびに事業推進状況報告をおこなう。
- (2) SDAビジョンの企画 --- ビジョン委員会
 - ・2015年「SDA創立50周年」を視野に、「SDAとは何か」「SDAはどこに向かうのか」明文化をめざす。
 - ・各種円卓会議、理事ディスカッションの開催から「SDA2015/ロードマップ」を策定する。

公1-5.

- (1) 地区における普及活動、地区研究会の開催

全国各地域でサインデザインの普及啓発を目的とした、様々なテーマの中から任意のテーマを設定し、各地区4回程度のサインデザインに関する研究会を開催する。なお各地区とも研究会のうち1回については、サインデザイン関連の施設の見学会を予定する。
- ① 北海道地区幹事会
 - ・社会的貢献として。
 - ・定例開催の「SDA大賞受賞セミナー、SDA賞作品ボード展」で、学生による発表会の場を設ける。
 - ・建築やデザインを学ぶ学校に呼びかけ、発表の機会をつくっていく。
 - ・会員増強/普及活動。
 - ・SDA会員であることのメリットについては、お互い思いの一部でも受け入れられる組織づくりと、進んで参加できる環境をつくる。
 - ・研究会。
 - ・公共サイン研究会（4回開催）。各社デザイナーによる発表の場を設ける。
- ② 東北地区幹事会
 - ・サインデザイン並びにSDAの啓蒙及び広報活動。
 - ・各地域での学校及び官庁や企業・商店などの団体へ向けてセミナーなどを行う。
 - ・研究会。
 - ・地区会員の情報交換やコミュニケーションの場を設け、他の地区の方々との交流の機会を設ける。
- ③ 関東地区幹事会
 - ・平成25年度はより一層若手中心の活動となることを目的に、関東幹事会の体制を含め、各事業活動の内容についても、継続するもの、時代にあわせ見直しが必要なものとメリハリをつけて変更していく。
 - ・20～30代の層がSDAの活動の参加したり、入会するきっかけをどのようにつくっていくべきか、今後のSDAにとって重要事項であるので、引き続き検討、実践を試みたい。
 - ・ユニバーサルデザイン、著作権、意匠法、工場見学、素材など、勉強型のセミナーを1回、東京サロンを2回開催。
 - ・会員間の親睦、異業種交流などを目的とした地区散策、サイン探検隊を各1回ずつ開催。
 - ・次世代へのサインデザインの普及を目的に、前年度に引き続き、出前授業を1回開催。
 - ・人気のあるSDA大賞受賞者セミナーは例年通り開催。
- ④ 中部地区幹事会
 - ・平成26年度における第21回定時総会開催に向けて、全ての会員の参加を促し全体計画をたて、周辺調査も随時行なっていく。
 - ・新規加入会員の積極的な事業への参加および中部地区全体での事業展開、会議開催。
 - ・デザイントリプレックス-10の開催。
- ⑤ 関西地区幹事会

今年度は地区としても新体制のもとに、会員間の緊密化を行い地区としてのまとまりを深め地区会員の積極的な取り組みによる活動を行なっていく。また地区会員が各事業活動に参画し他団体交流も含め全国的視野で活動していく。

 - ・会員相互の緊密化。
 - ・新体制を整え、事業活動や地区情報を発信し会員相互の緊密化と親睦を図る。

- ・会員増強対策として。
 - ・会員や関連企業の社員、スタッフ、又は関係者に、様々な地区活動に参加を呼びかけSDAの活動を理解してもらう。等、広く会員増強を図るための対策を図る。
 - ・地区研究会、運営集会の定例化。
 - ・年3回開催を目標にサイン研究のための新施設見学や素材に関するセミナーを開催する。
 - ・地区定例会「Issul（一水）会」の充実の為、併設して勉強会を開催する。
- ⑥ 中国地区幹事会
 - ・24年度から5ヶ年事業で進む、岡山県真庭市でのまちづくり交付金事業デザイン監修を会員一丸となり進めていく。また、この事業の成功、実績が今後の活動、会員増強に繋がれるよう発信していく。
 - ・関連団体活動については、積極的な活動に繋がれるよう、役割分担をし進めていく。
 - ・PC研合同セミナー
 - ・広島デザインデイズ(SDA賞作品ボード展)
 - ・他地区との交流活動も実績として残せるよう、みなさんと相談をさせていただきながら、進めていく。
- ⑦ 四国地区幹事会
 - ・昨年度に引き続き88カ所の過路道調査を行っていく。
 - ・今年度はもう一つ踏み込んで、期限を切り調査結果を踏まえたパネルディスカッションなどを行い、事業提案できるようにしていく。
 - ・最終的には世界遺産に登録できるようなお手伝いが出来るよう進めていく。
 - ・少しずつだが会員が増え、形ができあがってきた。今後もこの流れを崩さないように活動していく。
 - ・3年ごとに行われる瀬戸内国際芸術祭の見学を交え地方の力を発信していく。
- ⑧ 九州地区幹事会
 - ・社会的貢献。
 - ・個人や一企業では解決できない社会の諸問題に対して本協会や他団体との合同活動により広いデザイン視野を持って活動していく。
 - ・デザインスクールキャラバン参加。ユニバーサルキャンプ参加。
 - ・普及活動/会員増強。
 - ・FUKUOKAデザインリーグをはじめ他の活動への参加により、他団体所属者から本協会への関心が高まり入会希望へ繋がる事を期待。そのような活動に多くの地区会員が参加するよう促し、会員増強へとつなげていくと共に魅力的な研究会を開催し会員減少を防ぐ。
 - ・研究会。
 - ・研究会の企画段階から会員全員で行ない、全員で作上げて行く。また視察や他地区との共同研究会を企画し実施する。
- ⑨ 沖縄地区幹事会
 - ・今年度は、定時会員総会の開催地区となるので、これまで以上に地区会員一丸となって取り組みを行っていく。
 - ・「ゆんたく会」等を通して一般、公的機関の方々に、更にSDAの取り組みを理解して頂けるよう活動していく。
- (2) SDA賞作品ボード巡回展の開催 --- 国内交流委員会 + 地区幹事会 + SDA賞委員会
- (3) 国内関係機関との交流活動 --- 交流委員会
 - ・今年度からは、懸案項目の交流の視野をその他のデザイン団体や、地域の景観グループや行政メンバーなどと交流の輪を広げる取り組みを模索し、公益社団法人となったSDAの専門人材機関としてのメッセージを発信出来るような、仕掛けと仕組みづくりを各地区との連携を計りながら、展開を進めていく。
 - ・SDAが地域から認知されるプログラムと仕掛けづくり。
 - ・新たな交流団体との連携プログラムの展開。
 - ・枠を越えた人材交流の新たなスタイルとなるプログラムの展開。
 - ・各地区の行政の景観担当者との景観デザインセッションプログラム。(2地区)
 - ・地域の建築家グループとのサインデザインセッションプログラム。(2地区)
- (4) 海外関係機関との交流活動 --- 交流委員会
 - ・SDAと国際交流関係にあるIIID (International Institute for Information Design) が、2013年秋に日本の主に交通系のサイン、インフォメーションに関する先進事例の調査、体験ツアー実施のため10月12日(土)~19日(土)来日(20名程度)。
 - ・ツアー中SDA、IIIDでお互いの情報交換の場を持ち、国際会議や公開のフォーラムとすることで、公益社団法人SDAのあり方を広くアピールする場をもちたい。
 - ・SDAはIIID体験ツアー対象全般に対しての手配、ガイド等、全般的に協力していく。

公1-6.

(1) D-8の協力事業 --- 団体交流委員会

- ・デザイン保護委員会の「創作証」の運用と法的権利の研究をおこなう。
- ・デザインミュージアム設立研究会にて、スモールミュージアムの検討。
- ・デザインミュージアムの他運動（国立デザイン美術館等）との情報交換。

(2) 空間デザイン機構の協力事業 --- 団体交流委員会

- ・合同年鑑（年鑑日本の空間デザイン 2014- ディスプレイ・サイン・商環境）の発刊協力。出版体制の見直しを検討。
- ・合同空間デザイン展の各地区開催協力。

公2. サインデザイン賞（SDA 賞）に関する公募、審査、受賞対象の発表、表彰に係わる事業

(1) 第47回SDA賞の実施 --- SDA 賞委員会

- ・第47回SDA賞は、2012年5月1日～2013年4月30日までの1年間に完成した作品を広く一般から、5部門8類にわけ募集し、審査（5～6月）、各賞の発表（7月）ならびに顕彰（12月）を行う。

(2) SDA賞作品ボード巡回展の開催 --- SDA賞委員会 + (国内交流委員会 + 地区幹事会)

- ・第47回SDA賞入賞作品の応募作品ボードを使用し、空間デザイン展として他団体と合同で全国各地を巡回、優れたサインデザインに関する情報を広く社会に発信する。

(3) 第47回SDA賞贈賞式・受賞者祝賀パーティの実施 --- SDA 賞委員会

(4) SDA賞の運営方法等の見直し事項の検討 --- SDA 賞委員会

公3. サインデザインに関する人材育成、セミナー、講習会、展覧会等の開催事業

(1) セミナー等への講師派遣 --- セミナー委員会 + 地区幹事会

・プロフェッショナル塾の開催

- ・当初は手探りの状態で始まった八人塾は、北海道/愛媛/名古屋/福島/大阪の各地で開催、予想を上回る大きな評価を受け、この塾の社会における啓発事業としての責任を大きく感じる。
- ・今後、東京/福岡/広島/沖縄とまだこの事業は継続することになり、半分を終わった時点での見直しという段階にもきていると思われるが、やはりまずは全国を一回り総なめした後に今後のアレンジ（構成や講師の交代）を着手してみたいと思う。
- ・大きな反省として、この素晴らしい塾を開催継続のみにエネルギーを使い果たしてしまっただけで、広報へ繋がっていないことを強く感じる。この塾の今までの実績や受講生の声を、ひとつの小冊子にまとめることをぜひ今期は早めに実現を目指す。
- ・塾以外の多岐にわたるテーマセミナーの設定・企画立案・実施を模索する。

平成25年度正味財産増減計算内訳書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

科 目	平成25年度 予算合計	公 益 目 的 事 業 会 計				法人会計 (管理費)	内部取引 消去	平成25年度 合 計	予算残高
		公1.調査・情報	公2.SDA賞	公3.研究・セミナー	共 通				
I 一般正味財産増減の部									
1.経常増減の部									
(1) 経常収益									
① 受取入金	390,000	0	0	0	156,000	234,000	0	390,000	
正会員入金(個人)	300,000				120,000	180,000		300,000	
正会員入金(法人・団体)	90,000				36,000	54,000		90,000	
② 受取会費	16,776,000	0	0	0	6,710,000	10,066,000	0	16,776,000	
正会員会費(個人)	11,616,000				4,646,000	6,970,000		11,616,000	
正会員会費(法人・団体)	3,600,000				1,440,000	2,160,000		3,600,000	
賛助会員会費	1,560,000				624,000	936,000		1,560,000	
③ 事業収益	37,923,000	31,997,000	2,876,000	3,050,000	0	0	0	37,923,000	
公1.調査研究・情報収集提供事業	31,997,000	31,997,000			0			31,997,000	
公1-1 ①音サインに関する調査研究	20,000	20,000			0			20,000	
②デザインの調査研究	50,000	50,000			0			50,000	
③サイン素材の調査研究	20,000	20,000			0			20,000	
④医療看護支援ピカラム	50,000	50,000			0			50,000	
⑤デジタルサインの調査研究	40,000	40,000			0			40,000	
⑥案内図記号の開発	100,000	100,000			0			100,000	
⑦福岡市屋外広告物GL	0	0			0			0	
⑧湯原町づくり交付金事業	1,000,000	1,000,000			0			1,000,000	
⑨高岡市新サイン計画策定事業	4,500,000	4,500,000			0			4,500,000	
⑩新宿区屋外広告物GL	6,850,000	6,850,000			0			6,850,000	
⑪福岡市営地下鉄事業	4,000,000	4,000,000			0			4,000,000	
⑫宮崎市屋外広告物GL	0	0			0			0	
⑬福岡県屋外広告物GL	0	0			0			0	
公1-2 ①インターネットの推進	0	0			0			0	
②協会案内の発行	0	0			0			0	
公1-3 ①SDA賞作品集の発行	600,000	600,000			0			600,000	
②会員名簿の発行	450,000	450,000			0			450,000	
③新SIGNS編集受託業務	4,340,000	4,340,000			0			4,340,000	
公1-4 ①委員長・地区連絡会議の開催	0	0			0			0	
②ビジョン事業の推進	180,000	180,000			0			180,000	
公1-5 ①地区における普及活動	0	0			0			0	
②地区研究会の開催	4,607,000	4,607,000			0			4,607,000	
③国内関係機関との交流活動	400,000	400,000			0			400,000	
④海外関係機関との交流活動	0	0			0			0	
⑤国内関係団体活動への参加	0	0			0			0	
⑥海外関係団体活動への参加	3,050,000	3,050,000			0			3,050,000	
⑦復興支援プロジェクト	0	0			0			0	
公1-6 ①D-8の協力事業	0	0			0			0	
②空間デザイン機構の協力事業	0	0			0			0	
③合同年鑑の刊行協力	1,740,000	1,740,000			0			1,740,000	
公2.SDA賞の応募・審査・発表・表彰事業	2,876,000		2,876,000		0			2,876,000	
①SDA賞の実施	2,876,000		2,876,000		0			2,876,000	
②SDA賞巡回展の開催	0		0		0			0	
公3.研究会・セミナー等開催事業	3,050,000			3,050,000	0			3,050,000	
①プロフェッショナル講座	3,050,000			3,050,000	0			3,050,000	
④ 受取補助金等	20,000				20,000			20,000	
補助金収入	0				0			0	
雑 収 入 等	20,000				20,000			20,000	
経常収益計	55,109,000	31,997,000	2,876,000	3,050,000	6,886,000	10,300,000		55,109,000	

(2) 経常費用									
① 事業費	38,871,967	33,051,967	2,770,000	3,050,000	0			38,871,967	0
公1 調査研究・情報収集提供事業	33,051,967	33,051,967			0			33,051,967	0
公1-1 ①音サインに関する調査研究	15,000	15,000			0			15,000	0
②デザインの調査研究	10,000	10,000			0			10,000	0
③サイン素材の調査研究	10,000	10,000			0			10,000	0
④医療看護支援ビジュアル	10,000	10,000			0			10,000	0
⑤デジタルサインの調査研究	10,000	10,000			0			10,000	0
⑥案内図記号の開発	10,000	10,000			0			10,000	0
⑦福岡市屋外広告物GL	0	0			0			0	0
⑧湯原町づくり交付金事業	900,000	900,000			0			900,000	0
⑨高岡市新サイン計画策定事業	4,050,000	4,050,000			0			4,050,000	0
⑩新宿区屋外広告物GL	6,165,000	6,165,000			0			6,165,000	0
⑪福岡市営地下鉄事業	3,600,000	3,600,000			0			3,600,000	0
⑫宮崎市屋外広告物GL	0	0			0			0	0
⑬福岡県屋外広告物GL	0	0			0			0	0
公1-2 ①インターネットの推進	772,460	772,460			0			772,460	0
②協会案内の発行	100,000	100,000			0			100,000	0
公1-3 ①SDA賞作品集の発行	1,100,000	1,100,000			0			1,100,000	0
②会員名簿の発行	250,000	250,000			0			250,000	0
③新SIGNS編集受託業務	4,000,000	4,000,000			0			4,000,000	0
公1-4 ①委員長・地区連絡会議の開催	800,000	800,000			0			800,000	0
②ビジョン事業の推進	180,000	180,000			0			180,000	0
公1-5 ①地区における普及活動	276,000	276,000			0			276,000	0
②地区研究会の開催	4,170,100	4,170,100			0			4,170,100	0
③国内関係機関との交流活動	400,000	400,000			0			400,000	0
④海外関係機関との交流活動	0	0			0			0	0
⑤国内関係団体活動への参加	510,000	510,000			0			510,000	0
⑥海外関係団体活動への参加	3,050,000	3,050,000			0			3,050,000	0
⑦復興支援プロジェクト	1,181,407	1,181,407			0			1,181,407	0
公1-6 ①D-8の協力事業	118,000	118,000			0			118,000	0
②空間デザイン機構の協力事業	230,000	230,000			0			230,000	0
③合同年鑑の刊行協力	1,134,000	1,134,000			0			1,134,000	0
公2.SDA賞の応募・審査・発表・表彰事業	2,770,000		2,770,000		0			2,770,000	0
①SDA賞の実施	2,170,000		2,170,000		0			2,170,000	0
②SDA賞巡回展の開催	600,000		600,000		0			600,000	0
公3.研究会・セミナー等開催事業	3,050,000			3,050,000	0			3,050,000	0
①プロフェッショナル講座	3,050,000			3,050,000	0			3,050,000	0
②管理費	17,055,820	3,931,000	1,739,000	780,000	0	10,605,820		17,055,820	0
人件費	9,310,000	3,931,000	1,739,000	780,000	0	2,860,000		9,310,000	0
会議費	1,878,000				0	1,878,000		1,878,000	0
旅費交通費	537,780				0	537,780		537,780	0
通信運搬費	438,000				0	438,000		438,000	0
什器備品費	30,000				0	30,000		30,000	0
消耗品費	486,000				0	486,000		486,000	0
印刷費	100,000				0	100,000		100,000	0
水道光熱費	216,000				0	216,000		216,000	0
賃借料	2,143,050				0	2,143,050		2,143,050	0
事務委託費	787,500				0	787,500		787,500	0
慶弔費	50,000				0	50,000		50,000	0
交際費	28,400				0	28,400		28,400	0
事務機器リース料	384,300				0	384,300		384,300	0
雑費	666,790				0	666,790		666,790	0
③固定資産増減	0				0			0	0
当期減価償却費等	0				0			0	0
経常費用計	55,927,787	36,982,967	4,509,000	3,830,000	0	10,605,820		55,927,787	0
当期経常増減額	-818,787	-4,985,967	-1,633,000	-780,000	6,886,000	-305,820		-818,787	0
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益								0	0
経常外収益計	0				0			0	0
(2) 経常外費用									
経常外費用計	0				0			0	0
当期経常外増減額	0				0			0	0
当期一般正味財産増減額	-818,787	-4,985,967	-1,633,000	-780,000	6,886,000	-305,820		-818,787	0
一般正味財産期首残高	12,689,904				12,689,904	0		12,689,904	0
一般正味財産期末残高	11,871,117	-4,985,967	-1,633,000	-780,000	19,575,904	-305,820		11,871,117	0
II 正味財産期末残高の部	11,871,117	-4,985,967	-1,633,000	-780,000	19,575,904	-305,820		11,871,117	0